

【質問】ラスビック点滴静注の血液透析患者への投与は？

【回答】

血液透析患者への投与に関する情報はありません。

[参考]

●分子量

ラスクフロキサシンの分子量は 439.43 です(ラスクフロキサシン塩酸塩の分子量は 475.89 です)。

●血漿蛋白結合率

ラスクフロキサシン 1.0 及び 10.0 $\mu\text{g}/\text{mL}$ の *in vitro* でのヒト血漿蛋白結合率は、それぞれ 74.0%及び 71.2%でした。

●分布容積

健康成人 12 例(各投与群 6 例)にラスクフロキサシン(点滴静注)150mg 及び 300mg を単回点滴静注したときの分布容積(Vd)は、146 \pm 18.1 及び 135 \pm 14.0L でした。

●排泄率

健康成人男性 6 例にラスクフロキサシン(錠)75mg を単回経口投与したとき、投与後 144 時間までの未変化体の排泄率は、尿中に 8.38%、糞中に 16.0%でした。未変化体と脱シクロプロピル体の排泄率の合計は、尿中に 39.9%、糞中に 24.9%でした。

また、健康成人にラスクフロキサシン(点滴静注)150mg 及び 300mg を単回経口投与したとき、投与開始後 72 時間の未変化体の尿中排泄率は、それぞれ 12.2%及び 14.2%でした。代謝物である脱シクロプロピル体では、それぞれ 34.3%及び 28.3%、これら未変化体と脱シクロプロピル体の合計はそれぞれ 46.4%及び 42.5%でした。

本剤の用法及び用量は「通常、成人にはラスクフロキサシンとして、投与初日に 300mg を、投与 2 日目以降は 150mg を 1 日 1 回点滴静注する。」です。

注意

ラスビック錠 75 mgの用法及び用量、適応症、適応菌種、使用上の注意等は、ラスビック点滴静注キット 150 mgとは異なりますので、最新の添付文書を確認してください。

出典:添付文書、申請資料概要